

すいせん



発行者 須崎協議会 文化厚生部
下田市須崎一七九番地
須崎漁民会館内
電話 0558 (22) 8056

題字: 梅田弥祐先生

県知事選挙の結果

6月20日県知事選挙の投票が終了し、即日開票の結果、現職の山勝平太氏(72)が新人で前参議院の岩井茂樹氏(53)を大差で破り、4選を果たした。

津島神社お日待祭

6月23日(水)夕刻より津島神社にて山本宣司の取り計いで氏子会総代3役とお日待の祭神事を施行した。前年同様に、未だ終息しないコロナ感染防止を理由に、今期夏の祭典は非常に残念。

「須崎発展の夢を見た」

十屋 磯雄

入梅とはいえ初夏を思わせる季節、区民の皆様には御健勝のこととお慶び申し上げます。
6月4日の臨時総会では、何も決められない会合を開き誠に申し訳ございません。当日の報告は協議会より今尚ありませんで詳細は伝聞で伺いましたが、大荒れの会合で何も決められない総会であったようです。
この臨時総会に先立って5月22日に協議会幹部5名と市担当課との令和3年度須崎の事業の説明会が開かれました。
その席上3名の議員から「そんなにトイレは必要でない。作るならもっと小さなもので良い。」「金のかかる事は、区民に此られるので区民の声を聞いてもらいたい。」「こんな計画は聞いていないので反対。」「との意見がありました。
6月6日議会の日程に間に合うように、3人の反対者(3対2)が区民の意見を聞きたいとの事でしたので、6月4日財産区臨時総会として招集をしましたが、財産区条例には総会開催の規定はない事、区臨時総会に変更したものです。
この計画は令和元年度、私が区長に就任し、西ヶ岡利用諮問委員会を設立し、委員長には故森温繁氏にお願いしました。また委員会のメンバー構成は、学識者1名・西条女性2名・10組11組の組長・区協議会3役の8名です。委員会の答申はバリアフリートイレ建設が主なものでありました。
県の指導要綱では、トイレだけでは駄目で須崎地区のその他の修景整備計画が必要と規定されておりました。市では須崎区でお願した事を県に提出し、令和2年9月市議会にて本件が決定し、令和3年5月トイレ建設に着工しました。

各組要望の案件申請

区土木部では、先に各組の要望案件を聞き取り、市の申請書を作成し担当部署に提出をいたしました。
1組の要望書(2件)
①安兵衛屋敷の急坂道路改修整備の件
②庚申堂の先の道路改修整備と手摺り等の設置の件

3組の要望書(2件)
①伊豆屋上り階段の防犯外灯設置の件
②佐々家前の転落防止手摺り経年劣化の修理の件

9組の要望書(3件)
①西部農道入口から御台場線入口付近迄の立木や枝等の伐採整備の件
②御台場線入口3又路のカーブミラーの設置と停止線の設置の件
③御台場線の多賀主宅前道路の側溝排水の改修の件

区長十屋磯雄氏が退職

区長十屋磯雄氏より須崎協議会宛てに「一身上の都合により6月30日を以て区長職を退職する」と退職届が提出された。

須崎で見られる野鳥

丑嶋久雄

3, ホオジロ(頬白)

道端でチチッと短く続けて鳴きながら餌をついばみ、近づくことごとく10m程逃げ、またチチチッと鳴きながら食餌する様子が見られます。体長16cm程、スズメより長めの尾で、顔に黒白の模様(雌は黒い部分が褐色)が特徴です。特に頬の部分に白いのが「頬白」と呼ばれる理由のようです。
シベリア南部から東アジアに広く分布、日本では全国に分布する身近な野鳥です。
林の周辺、農耕地などのやや開けた環境にすみ、地上に落ちてくる草や木の種子をついばみ、昆虫やクモなども捕食します。



繁殖期は4月から7月、この時期になるとオスは電線や高木の上止まって大きく澄んだ声でさえずります。
「ピッピチュ・ピーチュ・ピリチュリチュ」などと聞こえ、これが「一筆啓上仕候」(いっぴつつけいじょうつかまつりそうろう)と聞こえることは以前から知られています。
また、聴く人によつては「札幌フレーム味噌フレーム」と聞こえるそうです。

も、須崎区の観光インフラの開発 整備は急務であります。

私案ではありますが、トイレ、恵比須島、御台場計画を実現したら、本年度は爪木崎の再開発計画を市及び県にお願し、10、20年後の須崎の後輩達が区の運営に困る事がない様に計画を立案しようと考えておりました。
須崎を取り巻く現状を俯瞰する時、爪木崎の駐車場、夏の海水浴場、水仙まつりなどの3点しか区の収入源はありません。また区内を見ると、「少子化で後継者の子供が少くない。」「人口が減少している。」「空き家が増加している。」「このままでは、協議会、組長会などの役員不足も懸念されます。時勢は市制50周年、御用邸50周年の時でもありません。市の周年事業として県に採択して頂き、爪木崎にビジターセンター、温泉施設、キャンプ場、サイクリングロード、アスレチック公園などの開設、入田浦、昭和天皇歌碑、大正天皇即位碑などの周辺整備を推し進めると同時に環境整備も徹底する。観光地は奇麗な修景でなければならぬ。自然のままが良いとの意見もあるが、それは問題であると思つた。
「自然何もしない」という考えは間違いである。自然や修景を維持する為にも整備が必要である。旧態依然の考えに固執せずに、新たな価値を創出し、多様化する観光客のニーズを的確に把握し、迅速に対応する事で、観光客に喜びや感動を与え、結果的に収入が安定し、区の繁栄につながるものと強く考えます。
論語に「子曰く七十にして心の欲する所に従いて矩をこえず」とあり、これまでに区長6期と7期目3ヶ月に亘り、須崎発展のいい夢を見させて頂きました。

令和3年度県より恵比須島の再開発、御台場の修景整備の補助金が決定しましたので、市説明会の後で前段申し上げた反対意見があり、臨時総会の招集のお知らせをしました。しかし、前期2年間毎月発行の区報「すいせん」の中で数回に亘り報告して来ましたが、私が緊急入院し、直接説明できなかった事も混乱の一因であったのであつたと思ひます。
過去の財産区の補助金の支出を振り返ると拠出金は、グリーンエリア、西部農道(東部農道は反対あり)、漁民会館、坂条道の拡張工事、小日浜安兵衛屋敷の坂道、公共トイレ3ヶ所など財産区から支出しています。
東部農道にしても、坂条観音寺線にしても、工事が実現していたら、当該地域は発展していた事でしょう。歴代の協議会議員は、須崎区運営の責任と自覚をもって、次の世代の為に須崎が発展する事に心を傾けてくれたので、今日の須崎があります。協議会議員は区民の声を聞くことも大切であるが、この案件は須崎発展に資するかの一点に集中し、協議会運営をして欲しいと思ひます。
実際の須崎区の収入の柱である爪木崎駐車場の平成から集客状況を見ると、平成3年度63,173台をピークに、平成17年度34,704台、令和2年度17,472台と15年周期で半減し、昨年度はピーク時の1/4にまで減少しております。このペースだと令和17年度には8,500台にまで減少し、駐車場収入は7000~8000万円まで激減する事が想定され、区の運営も立ち行かなくなり、10年を待たずに区民の皆さんへ区運営に係る費用の見直しをお願いしなきゃならない状況になります。
この状況を打破する為にも、次の世代に負担をかけない為に

